

# 研究推進計画

綾部市立西八田小学校

## 1 研究主題

「主体的にコミュニケーションを図り、学びを深める児童の育成」

～楽しむ・広がる・分かり合う児童を目指して～

## 2 主題設定の理由

本校は、令和5年度から令和7年度の3年間、京都府小学校教育研究会外国語研究協力校の指定を受け、「主体的にコミュニケーションを図り、学びを深める児童の育成」を研究主題として掲げ、外国語教育を軸に研究を進めている。これまでの2年間で、外国語や外国文化に親しみながら、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指し、具体的な対象との交流の機会を積極的に設定してきた。地域の「京都いろは日本語学校」の学生や「NPO 北近畿みらい」を通じた京都工芸繊維大学の留学生との交流を行い、児童が直接外国の方と関わりながら、英語を使って伝え合う経験を積むことで、外国語活動・外国語に対する意欲向上を図ってきた。

授業では単元の見通しをもたせ、単元ゴールを意識しながら学習に取り組むことで、児童が目的意識をもって課題解決に挑み、試行錯誤する姿が多く見られるようになった。また、スモールトークを授業に取り入れることで、知っている単語を手がかりに内容を推測し、自分の体験に基づいて反応するなど、英語によるやりとりを楽しむ姿も増えた。さらに、授業外の場面では、自ら考えを伝えようとする児童が増え、理由を付け加えてわかりやすく説明する姿勢も定着しつつある。外国の方との交流の場面でも、これまでの学習を生かして、質問をしたり反応を返したりしながら積極的に関わる姿が見られ、異年齢グループ活動では、低学年児童への助言やフォローを行うなど、自ら関わり、相手を意識して行動しようとする力も高まりつつある。

一方、児童アンケートで「外国語が好き」と答える児童の割合が少し減少しており、外国語の内容面の高まりに伴い、学習の難しさを感じる児童も増えた。学習内容の充実と意欲面の向上を両立させることが課題である。また、ALTの活用についても、授業内のみならず、授業外での児童との関わりを増やし、英語を使う必然性を生む活動を設定するとともに、発音指導等の指導方法についても事前に打ち合わせを行い、より効果的な指導体制を築きたい。さらに、授業の中で児童同士のやりとりの場面は増えてきているものの、中間指導において教師の発話量が多いという課題もあるため、言語活動を通してコミュニケーションを図る時間を軸にした授業づくりが必要である。

そこで今年度は、これまでの取組の成果と課題をふまえ、副題を「楽しむ・広がる・分かり合う児童を目指して」と設定し、「学びを深める児童の育成」に重点を置いて研究を進める。「楽しむ」では、外国語や外国文化に親しみ、英語を使うことそのものを楽しむ姿を育むことを目指す。「広がる」では、やりとりの中で使用できる表現を広げ、視野や考えを広げる機会をつくることを意識する。そして「分かり合う」では、相手意識をもち、学んだことを生かして様々な人とつながり、互いを理解し合う姿を目指す。この3つの姿を育てるために、学習過程に「マイタイム」「コミュニケーションタイム」「シェアタイム」を位置付け、児童自身が自分の学びを振り返り、考え、表現し合う活動を充実させていく。また、聞くことへの苦手意識を払拭するため、ティーチャーズトークやスモールトークの機会を積極的に設定し、Can do リストを活用した具体的な評価方法を工夫することで、児童の学びの自覚と意欲の向上を図る。魅力的なゴール設定を行い、実生活に生きる英語力の育成を目指して、より主体的に学びに向かい、学びを深める児童の姿を育てることを目標とし、研究を推進する。

### 3 研究方針

- (1) 授業研究会を実施し、豊かに表現し、主体的にコミュニケーションをとりあう外国語科の授業作りを目指すとともに、指導主事の助言を受け、その内容をもとに授業改善と課題解決を図り、研究成果を蓄積していく。
- (2) ブロックの幼小中の連携のもと、学力分析と活用、個に応じた指導、読書活動の充実、家庭学習の充実、基本的な生活習慣の確立、学級経営の充実と学習規律の徹底等を推進する。
- (3) 目的に応じた多様な表現力、伝え合い学び合う力、よりよい人間関係を築き積極的に他者と関わる力を高めるために、実践的な表現・体験活動や集会活動を充実させると同時に、子どもたちの学習環境を整備する。

### 4 研究組織

